

## 暫定利用について 提案書のとりまとめ

J R職員住宅跡地利用検討会では、跡地の暫定利用の検討を行ってまいりましたが、このたび「J R職員住宅の暫定利用についての提案書」をとりまとめ、地元の皆さんにご説明すると共に、区に提出することになりました。

提案書は次の4つの項目で構成されています。

### 1 暫定利用の目標

基本テーマは「人の輪をつくる」。この広場がまちの人々のつながりをつくることができるようにという想いからです。そして次の3つの目標を提案します。①防災に役立つ広場、②ふだんはまちの人々の憩いどころ、③公園などの本格利用に備える試行の場。つまり暫定利用であっても災害時に役立つことと、普段から人々の集いの場になること、そして本格利用にむけてさまざまな実験ができるようにし

たいということです。

### 2 使い方の方向性

広場の使い方は、隣の池袋本町公園との役割分担に配慮しながら次のようないろいろな使い方ができる広場を提案します。

①自然を感じる空間、②公園ではできないことができる広場、③子供の創造性を育む広場、④大人と子供の交流できる広場、⑤軽スポーツのできる広場

### 3 施設の提案

具体的な施設の提案としては、暫定的な利用であって予算をかけられないという区の事情を考慮して、①はらっぱ、②様々な利用に対応する場、③学校園を提案します。すでに学校園は池二小と文成小の児童によって少しずつ整備されています。

### 4 管理について

これから問題となる管理については、地元住民と区が協力しあって行うことを提案します。そして、管理のための組織として、跡地利用検討会とは別に暫定利用の会を設立し、近隣と協調しながら進めていくことを提案しています。

J R職員住宅跡地の利用は、まちでもいろいろと話題になっています。跡地検討会には忙しくて参加できないものの、意見や感想を持っていらっしゃる方は大勢いるのではないのでしょうか。そこで今回はJ R跡地をどうしたいかについて、主婦の方々にご意見を伺いました。(内藤・青山)

●4月7日に、新しい一年生が先生といっしょに跡地に入っていました。草花を摘んだり走り廻ったり、とても楽しそうでした。近くにはそうやって遊べるところがないからでしょうね。一日も早く子供達が自由に入り、遊べるようにしてあげたいですね。

●まだまだほんの少ししか草がないのに、雑草でも理科の教材になるし、いろいろな虫を見ることができるので、学校の先生も喜んでいました。これからどんどんいろいろな草や虫を見ることができるのが楽しみです。

●子供も大人も遊んだ後でちょっと一息。丸太のイスに腰かけ、のんびり、ちょっといい気分、そんな風景もいいのではないのでしょうか。

●防災センターが作られるとのことですね。1階部

分にディサービスセンターを設置して、1人でも多くの高齢者の方が利用して、中・高校生がボランティアとして参加できる福祉体験の場所になるといいですね。私も時間をつくって、ボランティアで何かお手伝いしたいです。防災センターという堅苦しいですが、そんな施設なら高齢者の方にも喜んで

いただけるし、地域の結びつきを深められると思います。

●広場はたくさんの方が集る場所になったらいいです。明るい元気な子供たちの声がいつも聞こえ、親もそれを見ながら話ができ、お年寄りの方が憩えるような、いつも人がいる広場がほしいと思います。

●池袋本町は家が建て込んでるので広い場所というのは学校や本町公園の他はJ Rの

跡地しかありません。学校も本町公園もいいですが、跡地には他とはちがう広場ができればいいですね。このごろはどきもきと作られた公園ばかりなので、昔の原っぱのように、子ども達にはどきどき、わくわくできるような広場で、大人には心やすらぐような広場があるといいですね。

## こうなるといいね…… J R職員住宅跡地の広場



## J R職員住宅跡地 暫定利用についての報告会

日時：平成13年5月11日(金)午後7時～9時

場所：池袋本町第二区民集會室

## 完成！3つめの井戸広場 文成小学校

### 災害時の水確保

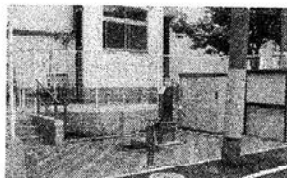
文成小学校の東側道路に面して、井戸広場が3月末に完成しました。広場と言える程広くはありませんが、交通量の少ない道路とフラットに作られていますので、災害時には何ら問題はないと思います。

水質検査の結果、水量、水質共申し分ないというデータが報告されています。水量は毎分20ℓと一般家庭の水道水を上回る出水量だそうです。又、水質も良く、飲料水適だそうです。一旦煮沸して飲まれる方が良いでしょう。

### 100mの深井戸

普通の井戸の深さは10m前後の多いそうですが、当井戸は地表より100mの深さまで径200mmの鉄管を埋設してあります。大地震の際にも安定した水量が得られるものと思います。又、動力として発電機を装備しています。通電時はもちろん、停電時は軽油で発電できます。当然、手漕ぎでも使用できるオールマイティな井戸となっています。普段は手

漕ぎにて常時使えるようにしてあります。防災倉庫には発電機にセットして使用する、照明灯も用意されています。



※広場の前の電柱は移設します。

### 地域に親しまれる井戸広場として

井戸は使われなければ意味がありません。井戸の近くの方は、榎木の水やりや、夏の冷えた水、冬の暖かい水を多めに利用して、親しんでいただければうれしいです。地域の方も通りがかった折々、是非足を止めて、取っ手を握り、地下水の感触を確かめてみてはいかがでしょうか。

文成小学校は、四丁目町会、親和町会地区の方々の、災害時の一時避難場所となっていますので、もしもの時、この井戸は私達の大いに頼もしい存在になることと思います。(市川)

## 放火犯人現行犯逮捕 とりもどした安心な夜

平成11年11月頃から、池袋本町二丁目の広範囲にわたり放火があいつぎました。時間は午後10時頃から11時半までの間で、何者かによって新聞紙・自転車・オートバイの保護シート等に付火されました。隣接する板橋区熊野町では家屋が全焼する事件もあり、二丁目町会としては、なんとしても放火による火災を防止しようとの声があがり、夜警を実施してきました。近隣の町会・消防署・警察・消防団に連絡し、協力を頂きながら、毎日7～8名位の警戒員をもって、防災テントを本部にして警戒を行いました。

そのせいでしょうか、昨年夏ごろに放火事件が一旦止んだので警戒を解いたところ、昨年11月頃より又、放火が始まりました。今度はいつもの土曜日ばかりに発生するので、土曜日を中心に警戒していました。そのような折、池袋本町二丁目のマンション車庫から不審な女性が出てくるのを、マンション住民が発見、車庫から黒い煙が出ているの

で放火犯人と直感して追跡し、警察に通報しました。張り込み中の警察官が現場に急行し、現行犯として逮捕しました。犯人は池袋本町二丁目に住む51歳の女性でした。

これで安心して夜を迎えることができるようになりました。長い間放火魔の警戒にご協力いただいた町会、各関係者の皆さんに心より感謝御礼申し上げます。(池袋本町二丁目町会 会長 小島建之)

